

平成22年度 第1回予防接種運営委員会 会議録

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 平成22年7月2日(金) 13:30~14:30 |
| 会 場 | 芦屋市医師会医療センター 2階会議室 |
| 出席者 | 委員長 鈴木 紀元 委員 北井 明 委員 河盛 重造 委員 姉川 詔子 委員 磯森 健二 委員 北野 章 事務局 北口 泰弘 瀬戸山 敏子 久保田 あずさ 井上 登代美 足立 裕子 |
| 事務局 | 健康課 |
| 会議の公表 | 公開 |
| 傍聴者数 | 0人 |

1 会議次第

(1) 委嘱状及び任命書の交付

委員長の選出

(2) 議題

- ・平成21年度予防接種事業実績について
- ・平成22年度予防接種事業実施計画について
- ・平成23年度検討事項について
- ・その他

2 提出資料

資料1 平成21年度予防接種事業実績について(第7章 感染症対策・予防接種)
新型インフルエンザ接種者報告書

資料2 平成22年度予防接種事業実施計画について
平成22年度芦屋市の予防接種について, 予防接種のお知らせ(保育園・幼稚園・小学校宛て・MR第3期および第4期), 日本脳炎ワクチン接種について, 小児細菌性髄膜炎予防接種支援事業

資料3 BCGの取り扱いについて, 子宮頸がんワクチンについて

3 審議経過

(開会)

委嘱状及び任命書の交付・委員長に鈴木委員を選出, 職務代理に河盛委員を選出
鈴木委員長挨拶

(鈴木委員長) それでは議題に入ります。事務局から説明してください。

(事務局足立) 平成21年度予防接種事業実績について説明いたします。

資料1の説明

(鈴木委員長) ただいまの説明について何かお気づきの点はありますか。

(河盛委員) MR1期の接種率が下がっていることが問題です。接種率が90%で流行するので, 最低でも95%以上になってもらいたい。周知方法をもっと考えるべきでは。

- (事務局瀬戸山) MR以外でも集団接種は強制と思っている人が多いが、個別接種だと任意のものと思い接種率が下がります。集団接種には行くが、個別接種は強制ではないと思っていた保護者もいました。
- (河盛委員) いまだに病気にかかったほうが良いと考えている人もいます。
- (鈴木委員長) かかったほうが免疫ができると思っている人もいますが、かかっていない人にとっては大変なことである。
- (河盛委員) はしかの死亡率の高さをわかっていない人が多い。死亡率の説明をしっかりと行うべきである。2000年には推定で発症者のうち100人が肺炎などで亡くなっている。
- (北井委員) 芦屋に限らず全国的に似た傾向がある。内科医としても接種率95%は達成しないといけないと思う。MR以外の予防接種も重要であることを訴えかけてほしい。
- (河盛委員) 優先度が違う。例えば日本脳炎やポリオとMRは違う。
- (事務局瀬戸山) 1歳6ヶ月健診や3歳児健診などで接種勧奨は行っています。
- (北井委員) 就学前の予防接種確認のところに朝日ヶ丘、打出浜はちらしのみというのはどういう意味ですか。
- (事務局瀬戸山) 10月27日に4小学校で同日に就学前健診があり、職員を出すのは2名が精一杯で一人ずつ母子健康手帳を見て不足分を7歳半までに接種するようチラシを手渡ししているが、朝日ヶ丘と打出浜はチラシを配布したのみで接種勧奨しました。
- (鈴木委員長) それでは、議題2について説明してください。
- (事務局足立) 平成22年度予防接種実施計画について説明いたします。

資料2の説明

- (事務局瀬戸山) 続いて小児細菌性髄膜炎予防接種支援事業について説明いたします。
- 資料2(小児細菌性髄膜炎予防接種支援事業)の説明
- (鈴木委員長) 小児細菌性髄膜炎予防接種支援事業はずっと継続されるのでしょうか。
- (事務局北口) 県の支援制度ができたのを踏まえて市としても実施していきたいと考えています。
- (鈴木委員長) 対象者の数はどれくらいですか。
- (事務局北口) 初年度は450名程度です。ただし、現在はワクチンも少ないと聞いています。
- (河盛委員) 10月からワクチンが増加すると聞いている。
- (事務局北口) 希望者は多いかと思えます。
- (河盛委員) 市外で接種しても償還できるのですか。
- (鈴木委員長) 領収書や母子手帳を見て確認するのですか。
- (事務局瀬戸山) 領収書と母子手帳の記録を確認して償還払いの手続きをしてもらうことになります。
- (北井委員) 毎回トータル金額の半分を助成するのですか。
- (事務局瀬戸山) 市としては接種後の1年以内に1回請求でお願いしたい。
- (鈴木委員長) 次の質問ですが、平成22年度芦屋市の予防接種についての予防接種を受ける前の一般的注意に記載されている「母子健康手帳を持参されない場合は、接種できないことがあります」というのは、お願い程度ではだめか。言い過ぎではないでしょうか。
- (事務局足立) この表現は保護者に渡している予防接種と子どもの健康に記載されている内容に基づいています。
- (鈴木委員長) 母子手帳をお持ちくださいの方がいいと思います。

(河盛委員) 日本脳炎については二期は現在中止となっているが、中止になっていた間に接種機会を逃してしまった人にはどういう状況になっているか分かるように書いてほしい。

(事務局瀬戸山) 現在国に置いてパブリックコメント中で秋には現在中止になっているものも再開になるだろうとの情報はあります。期の接種再開の時期と中止中の期間に接種できなかった子どもの接種開始時期は検討中ということです。

(河盛委員) もともと日本脳炎は全員は接種していない。例えば北海道や東北などは、平成21年度までは積極的に接種しないようにしていた。積極的勧奨になり驚いている。

(鈴木委員長) 審議していた部会のメンバーが変わっており、その影響もあるかもしれない。

(鈴木委員長) それでは平成23年度検討事項について説明願います。

(事務局瀬戸山) まず、検討事項BCGについて説明いたします。

資料3-1の説明

(事務局瀬戸山) 集団接種では月1回と接種機会が少ないこと、阪神間でもほぼ平成23年度には全市が個別となる予定となっておりますので個別接種に移行したい。

(河盛委員) 集団接種は接種率が高くなるが、ワクチンの濃さが十分に保てるか分からない。

(鈴木委員長) 一昨日、赤ちゃんが来てBCGを受けて1週間と少しだったが3つしかついていなかった。研修は必要だと思う。

(河盛委員) そう思います。

(北井委員) フォローが難しいと思います。研修も十分やってからでないトラブルも増えるでしょう。

(鈴木委員長) 予防接種を受ける側からすれば、効果を期待している。

(事務局瀬戸山) それでは、検討事項子宮頸がんワクチンについて説明いたします。

資料3-2の説明

(鈴木委員長) 国によっても接種年齢の意見が違う。意見として多いのは中学3年生である。

(北井委員) だいたい中学2,3年生くらいしか予防接種を受けないと思います。

(河盛委員) 任意接種なら中学3年生くらいまでが適切でしょう。

(事務局瀬戸山) 小学6年生から中学3年生までということではよろしいでしょうか。

(河盛委員) セクシャルデビュー前がいいと思います。

(北井委員) PRして助成があるなら受けてみようという感じではないでしょうか。学校によっても違って来るだろうし、病院に行くなら婦人科が多いと思います。

(河盛委員) 子どもでも婦人科で受診することが多い。

(事務局北口) できるなら医師会内で接種できるところに手を挙げてもらい、予防接種をしていただきたい。

(鈴木委員長) その他何かありませんか。

(事務局久保田) 次回の日程ですが、年2回を予定しており、2月の予定でよろしいでしょうか。

(鈴木委員長) 以上で、終了とします。

閉会